

# JT東北支社 SDGsへの取り組み



日本たばこ産業株式会社 東北支社

# Contents

## 1. サステナビリティ・マネジメントの方針

- JTグループにおけるSDGsへの取り組み領域
- 東北支社におけるSDGsへの取り組み領域

## 2. 新たにはじめた取り組み

- ピリカ社との協業（環境保全）
- フードバンクとの協業（格差是正）

## 3. 既に行っている取り組み

- 災害分野の取り組み
- 環境保全の取り組み

## 4. JT SDGs貢献プロジェクトの概要

# 1. サステナビリティ・マネジメントの方針



# 1-1. JTグループにおけるSDGsへの取り組み領域

## ステートメント

JTグループは、責任ある地域コミュニティの一員として、自然・社会・人間の多様性に価値を認め、幅広いステークホルダーとともに様々な社会貢献活動に取り組んでいきます。  
JTグループは、持続的な地域社会の発展および「包摂的な社会」"inclusive societies"の実現に寄与することを目的に、マルチステークホルダー・パートナーシップを基盤として、下記三つの領域を、社会貢献活動の重点課題として位置づけます。



**環境保全**  
Protecting  
the environment

国内実施施策  
・JTの森  
・ひろえは街が好きになる運動 等



**災害分野**  
Improving  
Community resilience

国内実施施策  
・義援金の拠出  
・東日本大震災復興支援 等



**格差是正**  
Reducing  
inequalities

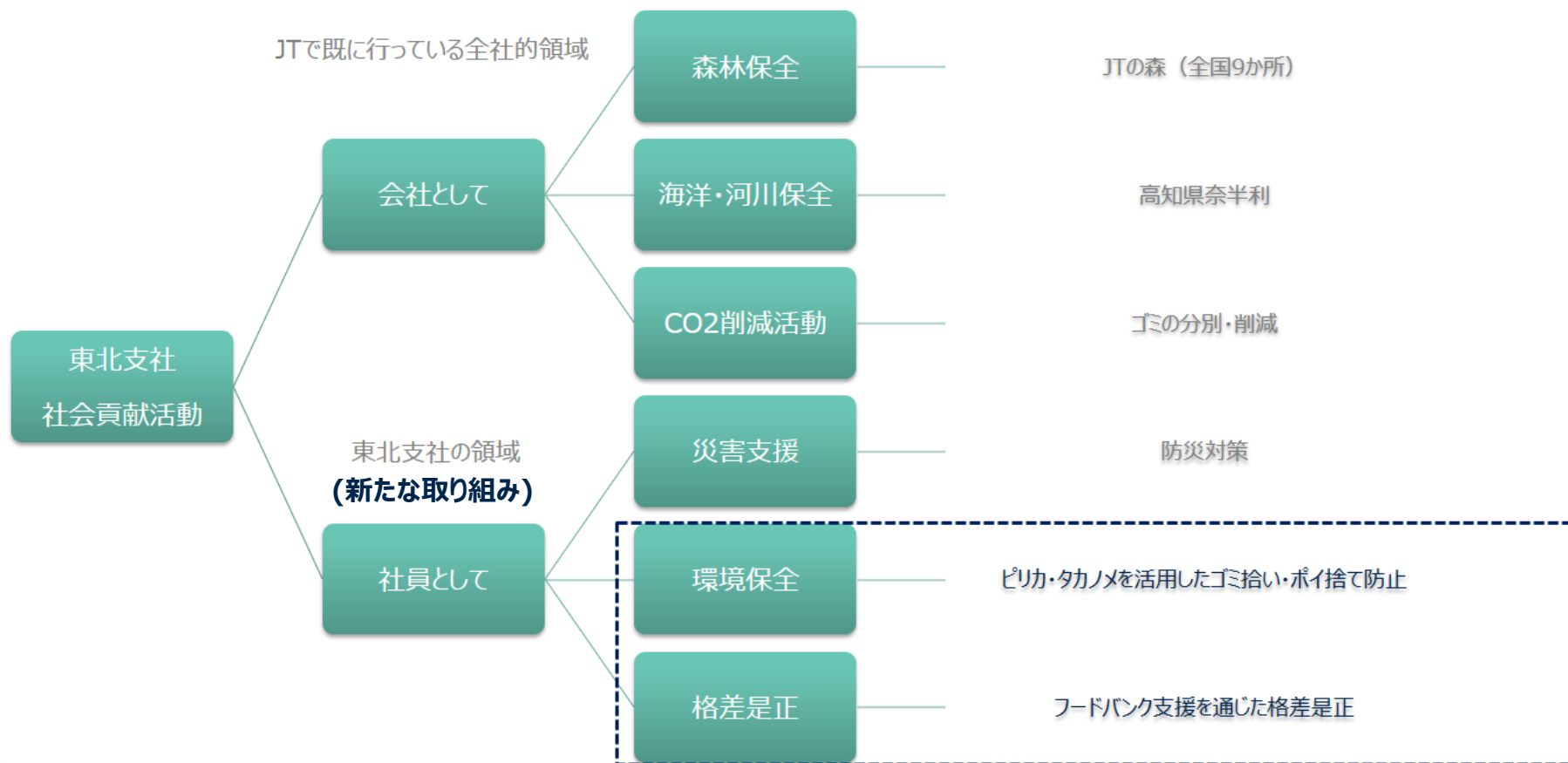
国内実施施策  
・JT NPO助成事業  
・JT国内大学/グローバル奨学金 等



**マルチステークホルダー・  
パートナーシップ推進**  
Partnerships

国内実施施策  
・ジェイティ財団  
・JT生命誌研究館  
・アフィニス文化財団  
・JTフォーラム、テーブルマーク子ども大会 等

## 1-2. 東北支社におけるSDGsへの取り組み領域



## 2. 新たにはじめた取り組み

ひとの  
ときを、  
想う。 JT

## 2-1. ピリカ社との協業 (環境保全)

### 目指す姿

清掃活動を通じて「環境保全」に努め、地域社会の発展に貢献する

- ゴミ拾いアプリ「ピリカ」を活用し、地域コミュニティと共に清掃活動に取り組む
- ゴミ拾いアプリ「ピリカ」を活用し、地域のパートナーと清掃活動の「見える化」を図る

## 2-1. ピリカ社の概要

### 株式会社ピリカ



#### ◆事業概要

ごみ拾いSNSピリカの開発・運営／ポイ捨て調査サービスの提供／  
環境問題解決のための調査・研究

#### ごみ拾いSNS"ピリカ"

ソーシャルネットワークの力で世界中のごみを拾い尽くす

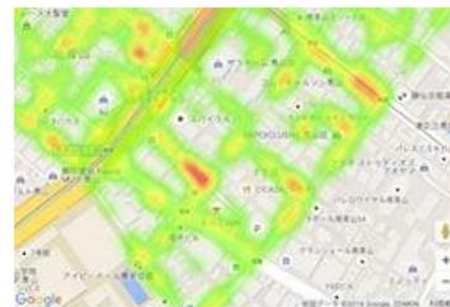
ピリカは世界最大のごみ拾いSNSで、世界85ヶ国から80万人以上が参加しています。これまでにピリカを通じて1億個以上のごみが拾われ、世界が少しずつきれいになっています。 [詳細を見る](#)



#### ポイ捨て調査・分析"タカノメ"

人工知能の力でポイ捨てのない街をつくる

タカノメは人工知能を用いた画像認識技術でポイ捨てごみの分布や深刻さを計測することのできるシステムです。調査結果を活用してポイ捨て防止施策の効果測定や改善コンサルティング、都市開発、研究などを行い、ポイ捨てのない街づくりに貢献します。 [詳細を見る](#)



#### プラスチック流出調査・対策

##### "アルバトロス"

海のプラスチック汚染を阻止する

気候変動と並び、人類にとっての重大な脅威になり得ると考えられている(マイクロ)プラスチックによる海洋汚染問題。アルバトロスはその実態や問題の発生源を調査するためのプロジェクトです。 [詳細を見る](#)





## 2-1. ピリカ社との取り組み

### ◆ピリカ

#### 1. ごみ拾いアプリ(SNS)

ゴミを拾った写真を撮って、文章とともに投稿するSNS  
投稿した写真データの位置情報をもとに地図上にマッピングされる

##### 【導入目的】

- ひろ街や定期的実施している清掃活動を「見える」化し、地域全体の清掃活動のモチベーションを高める
- 清掃活動を定量化することで、社員ひとりひとりの清掃活動への達成感につなげる



### ◆タカノメ

#### 2. ポイ捨て調査・分析 (ヒートマップ作成ツール)

ごみのポイ捨てをヒートマップ化  
(ポイ捨てが多い場所とポイ捨てが少ない場所を比較できる地図)

##### 【導入目的】

- ポイ捨てされたゴミを定量化し、清掃活動を効率化する



## 2-2. フードバンクとの協業 (格差是正)

### 目指す姿

震災由来による「格差是正」を食品(嗜好品)会社として取り組み、  
地域社会の発展に貢献する

- フードバンクと協業し、生活にお困りの皆さまへ食料品を届ける
- 地域社会における食品廃棄ロス問題の意識向上を図る

## 2-2. フードバンク岩手の概要

### フードバンク岩手とは

フードバンク岩手は、市民・企業・団体の皆さまより、賞味期限内でまだ食べられるのに、家で眠っているものや買いすぎてしまったもの、印字ミスや規格外などで販売できない食品を寄付してもらい、生活にお困りの皆さまへ行政・社会福祉協議会を通じて提供しているNPO法人。



#### フードバンクのしくみ



#### 寄付していただいた後の食料品の管理方法とお渡しまで

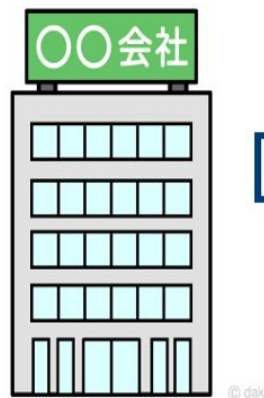
- 寄付いただいた食料品をひとつずつ検品作業（賞味期限の確認、破損や汚れの確認）
- 食料品の種類別に分けて保管（おかず類、麺類、飲料、お菓子など）
- 緊急支援の要請を受け、各世帯の年齢や性別、食料支援期間に応じて食料品を箱詰めし各相談機関へお渡しします。（1箱7,000円～10,000円相当）



## 2-2. フードバンク岩手へのJT支援内容

### 支援内容① 援助食料品の拠点間輸送

営業が担当エリアへ営業活動後  
にポストから物品を回収



FDB岩手に寄り、物品をお渡し

#### 【概要】

- JTの営業員は担当エリアをもっており、営業活動と並行して、エリア内の食料品輸送を支援



## 2-2. フードバンク岩手へのJT支援内容

### 支援内容② 支店ビルでの『フードバンク岩手』のPR活動



#### 【概要】

- JT盛岡支店ビルで、フードバンク岩手の「食料品回収ポスト」および「のぼり旗」を設置し、食料品回収とフードバンク岩手のPRを実施

## 2-2. フードバンク岩手へのJT支援内容

### 支援内容③ 社員からの『支援食料品』の調達

#### 【概要】

- 援助品のニーズがピークを迎える年末に、有志社員から食料品を集め、フードバンク岩手へ寄付

#### 【社員の皆様にご提供していただきたい食料品例】

<p><b>缶詰類</b></p>  <p>サバ缶、サンマ缶、ツナ缶、焼鳥缶、大豆缶など</p>	<p><b>レトルト食品</b></p>  <p>カレー、親子丼、牛丼、ミートソース、釜飯の素など</p>	<p><b>瓶詰類</b></p>  <p>なめ茸、佃煮、さけフレークなど</p>	<p><b>ふりかけ類</b></p>  <p>ふりかけ、お茶漬けの素などご飯のお伴</p>
<p><b>乾物類</b></p>  <p>わかめ、はるさめ、かつおぶし、昆布、ひじき、インスタントみそ汁など</p>	<p><b>お米</b></p>  <p>精米、玄米、前年度産までの分</p>	<p><b>乾麺</b></p>  <p>スパゲッティ、インスタント麺など</p>	<p><b>贈答品</b></p>  <p>のり、お茶、お歳暮・お中元など</p>

#### 【条件】

- 賞味期限が1ヵ月以上のもので、常温保存可能なもの
- 未開封で賞味期限の記載のあるもの

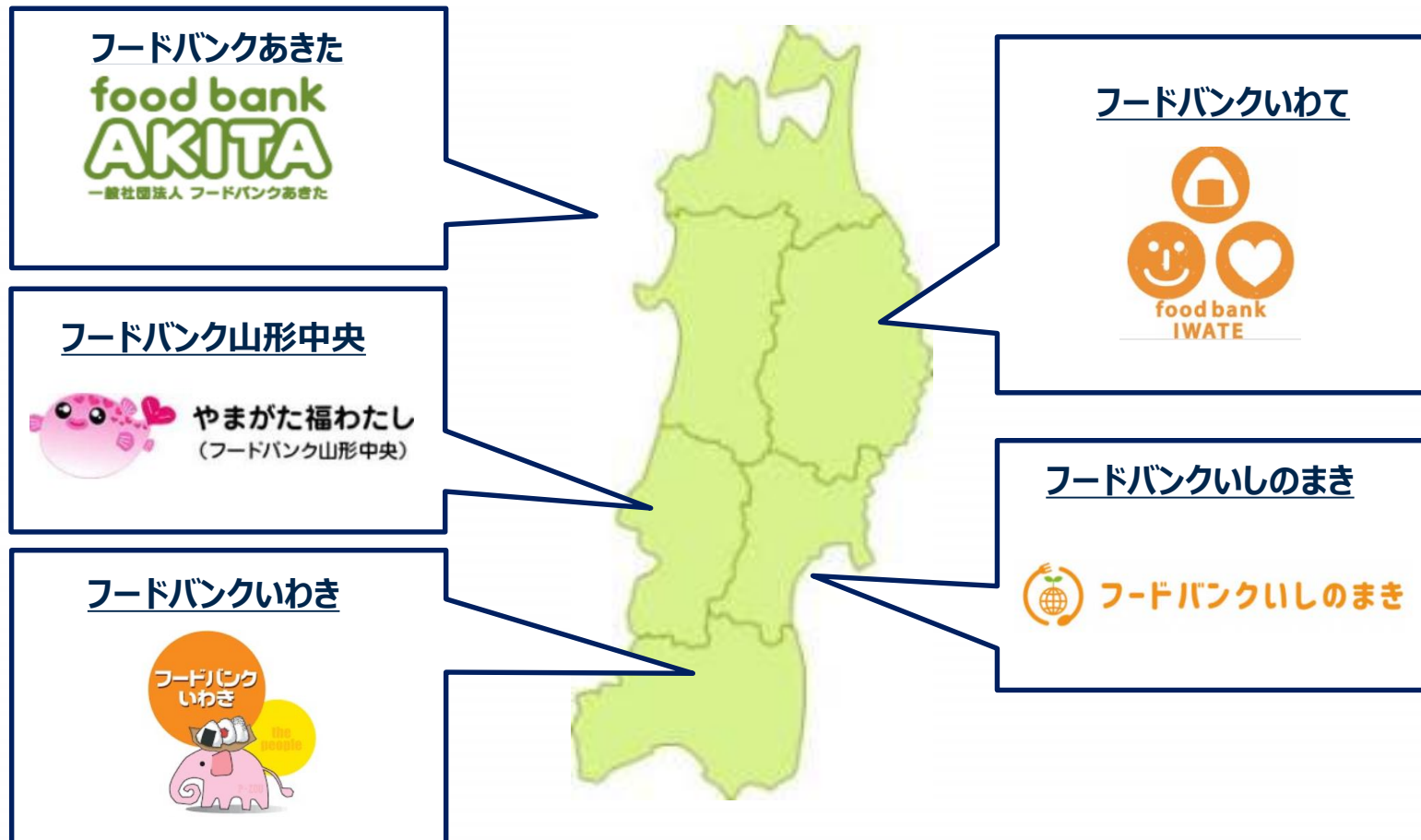
## 2-2. フードバンク岩手 支援実績

2019年9月以降、376.8kgの配送支援を実施

		配送支援	JT食料支援
2019年	9月	19.0	6.1
	10月	51.9	0.0
	11月	77.7	37.6
	12月	95.6	69.5
2020年	1月	39.4	0.0
	2月	62.0	1.0
	3月	31.2	1.0
合計		<b>376.8</b>	<b>115.2</b>

単位: kg

## 2-2. JT東北支社 提携フードバンク



※青森県においては、2020年4月よりフードバンク事業を行っている「特定非営利活動法人 沙羅双樹の会」様と提携



### 3. 既に行っている取り組み

ひとの  
ときを、  
想う。 JT

## 3-1. 災害分野の取り組み

### 東日本大震災復興支援 (災害分野)

JTNPO応援プロジェクトを通じ、被災地で活動するNPO団体の活動を支援しています。「コミュニティの再生・復興支援(第1期/3年)」、「コミュニティの自立支援(第2期/2年)」を経て、2019年より震災の経験を後世に伝え、防災減災につなぐ「震災伝承」に関わる支援を実施しています。



(参考)2013年からの累計助成金額



(参考)2013年からの延べ助成団体数



JTが開発・保有していた品種を、岩手県陸前高田市に寄贈し、オリジナルブランド米「たかたのゆめ」が誕生しました。



「たかたのゆめ」収量



「たかたのゆめ」生産農家数



\*実績数値はすべて2018年実績

### 被災地における支援活動 (災害分野)

国内外の災害発生時に、JTグループ各社で連携し、被災地への緊急支援を実施しています。



## 3-2. 環境保全の取り組み

### JTの森

各都道府県の企業の森づくりを支援する森林保全協定の枠組みを利用。地域が目指す森づくりに必要な手入れを支援する「JTの森」を2005年より全国各地で実施しています。

また、毎年春と秋には従業員ボランティアが、地元の方々と森林整備を行う「森づくりの日」を実施しています。



「森づくりの日」に係った  
従業員ボランティア人数・時間


**741**人  
 延べ**741**時間

\*実績数値はすべて2018年実績

## 3-2. 環境保全の取り組み

### ひろえば街が好きになる運動

「ひろう」という体験を通じて「すてない」気持ちを育てたいという願いのもと、2004年から全国各地で、自治体、学校、ボランティア、各催事の実行委員会や協働団体など、さまざまな方々と市民参加型の清掃活動を実施しています。

青森県においては、2004年以降継続して開催させていただき、昨年まで**23回**開催し、延べ参加者数は**10,492人**を越えました。

#### 青森県における「ひろ街」開催実績



開催日	催事名/開催地	参加者数	主な協力団体（敬称略）
2004年8月2日～5日	青森ねぶた祭/青森市	1,107名	青森県産業振興協会/青森観光コンベンション協会
2005年8月5日～6日	青森ねぶた祭/青森市	619名	青森県産業振興協会/青森観光コンベンション協会
2006年8月5日～6日	青森ねぶた祭/青森市	949名	青森県産業振興協会/青森観光コンベンション協会
2007年8月5日～6日	青森ねぶた祭/青森市	1,019名	青森県産業振興協会/青森観光コンベンション協会
2008年7月31日	八戸三社大祭/八戸市	160名	青森県/八戸観光コンベンション協会
2008年8月5日～6日	青森ねぶた祭/青森市	944名	青森県/青森市/青森県産業振興協会/青森観光コンベンション協会
2008年11月2日	弘前城菊と紅葉まつり/弘前市	488名	青森県/弘前観光コンベンション協会
2009年7月31日	八戸三社大祭/八戸市	284名	青森県/八戸観光コンベンション協会
2009年8月5日～6日	青森ねぶた祭/青森市	962名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2009年10月31日	弘前城菊と紅葉まつり/弘前市	940名	青森県/弘前市/弘前観光コンベンション協会
2010年7月31日	八戸三社大祭/八戸市	192名	青森県/八戸観光コンベンション協会
2010年8月5日～6日	青森ねぶた祭/青森市	450名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2010年10月30日	弘前城菊と紅葉まつり/弘前市	330名	青森県/弘前市/弘前観光コンベンション協会（まつり運営委員会）
2011年10月8日	青い森のハロウィン/青森市	338名	青森県/青森市新幹線新青森駅開業対策事業実行委員会
2012年8月5日	青森ねぶた祭/青森市	267名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2013年7月28日	山内丸山縄文遺跡/青森市	213名	青森県/青森市/青森県縄文遺跡群世界遺産をめざす会外
2013年8月5日	青森ねぶた祭/青森市	239名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2014年8月5日	青森ねぶた祭/青森市	366名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2015年8月5日	青森ねぶた祭/青森市	136名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2016年8月5日	青森ねぶた祭/青森市	141名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2017年8月5日	青森ねぶた祭/青森市	184名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2018年8月5日	青森ねぶた祭/青森市	53名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会
2019年8月5日	青森ねぶた祭/青森市	111名	青森県/青森市/青森県観光連盟/青森観光コンベンション協会

## 4. JT SDGs貢献プロジェクトの概要



## 4. 重点3領域を横断した取り組み



地域社会の様々な団体とのパートナーシップを基盤に、JTグループの社会貢献活動の重点3領域および関連するSDGsへの貢献を通じて、包摂的かつ持続可能な地域社会の発展に向けて取り組んでいきます。

### JT SDGs貢献プロジェクト

対象事業	日本国内において実施する「格差是正」、「災害分野」、「環境保全」につながる事業
対象団体	法人（営利／非営利等の法人格は問わない）
募集期間	通年（2020年1月15日から募集を開始）
助成期間	開始月から1年間（最長3年間の継続助成が可能）
助成金額	1法人1事業を対象 上限200万円（申請事業に関わる事業費及び人件費）